

# 平成30年度 学生市民等協働プログラム 概要

部局名 人文社会科学部

区分	内容
事業名	外国人目線で楽しめる弘前ツーリズムの開発 ～台湾人目線による弘前の魅力再編集～
指導教員	① 人文社会科学部 森 樹男 ② 人文社会科学部 高島 克史
学生市民等の所属及び人員	人文社会科学部 6名 株式会社コンシス 代表取締役ほか 計2名
渡航先 (渡航期間)	台湾 (平成30年7月3日～平成30年7月8日)
実施 スケジュール	平成30年 5月22日～ 事前調査 " 7月3日 東京にて前泊 " 7月4日 台湾渡航・開南大学(桃園市)訪問 " 7月5日 開南大学(桃園市)訪問・企業調査 " 7月6日 旅行会社2社(台北市)訪問調査 " 7月7日 開南大学(桃園市)にて調査結果発表会 " 7月8日 帰国 " 7月9日～ 調査結果の集計, 考察, 弘前ツーリズム開発
プログラムの概要	<p>1. 目的: 本事業は、青森県に来る台湾人観光客のリピーターを増やすために、台湾人目線で弘前の観光を再編集した弘前ツーリズムを開発すること、を目的としている。</p> <p>2. 事業概要: 台湾において青森県旅行体験者を対象に調査を実施し、台湾人が青森県や弘前市に求めている観光コンテンツは何か、どのようなものを食べたり、体験したいのかなど、台湾人が求める観光とは何かを探り、それらの情報をもとに再編集した「台湾人目線の弘前ツーリズム」を開発するものである。</p> <p>3. 教育目標: ①外国人目線で青森県や弘前市の魅力を認識できるようになること。 ②外国人目線でのツーリズムについて考えることができるようになること。 ③グローバル人材として必要な感覚や能力を身につけること。</p> <p>4. 期待される成果等: ①台湾人観光客が求める観光プログラムの開発 ②グローバル人材としての感覚と能力を身につけた人材の育成 ③マーケットインの発想による新しい観光の魅力発信ができる人材の育成</p> <p>5. 当事業が弘前市や弘前市関連地域にあたえる効果・成果等: ①調査結果で明らかになった「外国人目線による弘前の魅力」を地域で共有することで、インバウンド向けの観光プログラムを開発する気運を高めることができる。 ②外国人目線による弘前ツーリズムが開発されることで、弘前市へのインバウンド客のリピーターが増加し、経済効果を見込むことができる。</p>

プログラムの様子



【写真1：開南大学での調査概要説明】



【写真2：アンケートを入力する開南大学生】



【写真3：ホテルでの打合せ】



【写真4：現地旅行会社での調査】



【写真5：訪日旅行者へのインタビュー調査】



【写真6：開南大学での成果発表会】

今後の展望

今回、台湾人を対象に行った弘前の魅力に関するデータは、「食」「体験」「宿泊」「お土産」の多岐にわたっている。今回の発表はその一部を活用したものであり、実際には他にもさまざまな分析を行うことで、台湾人が魅力に思うものをさらに明らかにできると考えている。そこで、今後は、アンケート調査のデータをさらに分析し、私たちが気がつかなかった台湾人の目線から見た弘前市の魅力を明らかにしたい。また、それらをもとにした台湾人目線の弘前ツーリズムを考案していくことを考えている。

さらに可能であれば、次年度は考案した弘前ツーリズムとして開発した観光コンテンツを試行し、その有効性を検証していきたい。その上で、地域企業による採用を目指していきたいと考えている。